

武蔵野書院

訓点語学会会員様向け特設サイト
2022年10月11日～10月31日

このサイトからのご注文に限り書籍を、
学会割引（税込み定価の2割引）＋送料無料
にてご注文いただけます

ご注文方法

1. **A** 書籍名をクリックする。**B** 書籍QRコードを読み取る。
C 最後のページの注文書で、FAXやメール等で注文する。
A～C のいずれかの方法でご注文ください。
2. **A・B** でご注文の際は訓点語学会会員である旨を明記ください。

お支払方法

1. ご注文いただいた書籍をお送りする際に同梱する、郵便振込用紙にてお支払ください（振込手数料小社負担）。銀行振込でも承りますが、その際は振込手数料をご負担いただきます。
2. 公費注文の場合、宛名・日付の有無・納品 / 見積 / 請求書の枚数をお知らせください。

*****ご注文・お問い合わせ先*****

武蔵野書院

〒101-0054 東京都千代田区神田錦町 3-11

TEL 03-3291-4859 FAX 03-3291-4839

e-mail : info@musashinosho.in.co.jp

日本語学会論文賞叢書 新たに誕生！



新刊

服部紀子 著

日本語学会論文賞叢書1
「格」の日本語学史的研究
—江戸期蘭文典と国学からの影響—

日本語学会論文賞叢書 第1弾！

江戸時代におけるオランダ語学史については、先人によって新たな視点での研究が始められている。しかしそのような中で、オランダ語学を通して見出された日本語観、言い換えると、オランダ語との対照言語学的視点によって得られた日本語の見方については考察すべき余地があるように思われる。それまで日本では意識されることのなかった格は、オランダ語を通して意識されるようになった。江戸時代の蘭学者がオランダ語における格 (naamvallen) という概念をどのように理解し、またそれが日本語観にどう影響したのか。近代文法学説に見られる格研究の前史として位置づけることが本研究の目的である。

定価：本体8,000円＋税 判型：A5判上製カバー装 192頁
刊行日：2021年9月17日 ISBN：978-4-8386-0759-4



最新刊

菊地恵太 著

日本語学会論文賞叢書2
日本略字体史論考

日本語学会論文賞叢書 第2弾！

本書は、日本における略字体（規範とされる漢字字体に対して筆画が簡略になった漢字字体）を対象として、その使用状況にいかなる変化が生じていたかを明らかにし、漢字字体史の通史的記述を試みるものである。特に、従来明らかにされていなかった略字体の使用実態の歴史を把握し、非規範の世界における漢字字体史の一端を明らかにすることを目的として、文献調査と考察を進める。

定価：本体10,000円＋税 判型：A5判上製カバー装 288頁
刊行日：2022年1月31日 ISBN：978-4-8386-0766-2



最新刊

松倉昂平 著

日本語学会論文賞叢書3
福井県嶺北方言のアクセント研究

日本語学会論文賞叢書 第3弾！

長く福井県嶺北地方はアクセント研究の空白地帯であり続け、本地方を含む福井県方言のアクセントを詳しく記述した文献（図書）は皆無に等しい。そのような状況にあって、本書は福井県方言のアクセントの詳細を明らかにする初めての本格的な研究書となる。

定価：本体11,000円＋税 判型：A5判上製カバー装 312頁
刊行日：2022年5月9日 ISBN：978-4-8386-0767-9



最新刊

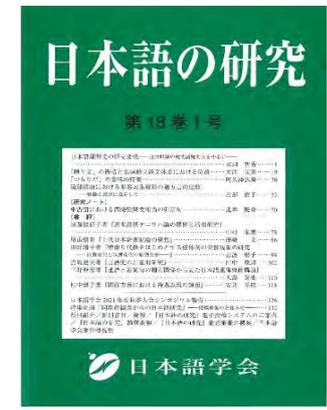
日本語学会 日本語の研究 第18巻2号

接続助詞用法の「～べきを」の推移—古代語から現代語へ—…佐伯暁子／ドンケル・クルチウスの日本語文典の成立を巡って…ルディ・トート／『吾妻鏡補』所載『海外奇談』にみるハ行子音—喉音合口字に着目して—…王峻磊／日本語の雑談の物語開始における談話標識の使用傾向—「あー、そう、でも、なんか」のしくみ—…張未來

〔書評〕
上野和昭著『名目鈔声点本の研究』…佐々木勇／田中寛著『日本語複文構文の機能論的研究』…前田直子／角田太著作『日本語の地殻変動—ラレル・テアル・サセルの文法変化—』…志波彩子／山岡華菜子著『環大阪湾地域におけるアクセント変化の研究』…平子達也
特集企画「国際的観点からの日本語研究」—投稿募集のお知らせ—



定価：本体3,420円＋税 判型：A5判並製 152頁
刊行日：2022年8月1日 雑誌コード：03725-8



最刊

日本語学会 日本語の研究 第18巻1号

日本語疑問文の歴史変化—近世以降の疑問詞疑問文を中心に—…衣畑智秀／「嘲り文」の構造と名詞独立語文体系における位置…大江元貴／「つもりだ」の意味的特徴…阿久澤弘陽／琉球諸語における形容詞重複形の通方言的比較—修飾と叙述に着目して—…占部由子

〔研究ノート〕中古語における間接疑問文相当の引用句 辻本桜介
〔書評〕遠藤佳那子著『近世後期テニヲハ論の展開と活用研究』中村朱美／尾山慎著『上代日本語表記論の構想』澤崎 文／川野靖子著『壁塗り代換をはじめとする格体制の交替現象の研究—位置変化と状態変化の類型交替—』志波彩子／宮島達夫著『言語史の計量的研究』田中牧郎／三好伸芳著『述語と名詞句の相互関係から見た日本語連体修飾構造』大島資生／村中淑子著『関西方言における待遇表現の諸相』安井寿枝
日本語学会2021年度秋季大会シンポジウム報告／特集企画「国際的観点からの日本語研究」—投稿募集のお知らせ—



定価：本体3,420円＋税 判型：A5判並製 172頁
刊行日：2022年4月1日 雑誌コード：03725-4



新刊

桐山智子 著 タカラヅカ 百年の芸名

百年を超えるタカラヅカを彩ってきた「芸名」を多角的に考察する！

著者が、長年興味をもち続けてきた「人名」、古く大正時代から「タカラヅカ」の舞台で活躍してきた数多の「タカラジェンヌ」、そしてその華やかな「芸名」を1期生から100期生までの全4426人の芸名のデータベースを作成し、時代ごとにその傾向を掴む。

大正期の百人一首に由来する芸名は、掛詞や縁語、文字遊びなど言語遊戯的な要素を多分に活用し、昭和期以降の芸名も、一般の命名ではない姓をつくり、名と組み合わせることで考案するところに、音と文字の使い方の妙味が表れる命名法だった。

その分析から導き出された各時期の特徴は、「男役」の芸名や「キラキラネーム」などのトピックを立て考察を加える。



定価：本体3,500円＋税 判型：A5判並製カバー装 332頁
刊行日：2021年10月14日 ISBN：978-4-8386-0497-5



最新刊

今野真二 著 **豊島与志雄『未来の天才』**
—自筆原稿二種の影印・翻刻・解説—

二種類の自筆原稿が示すもの

豊島与志雄「未来の天才」の「第二の自筆原稿」が見つかった。『人間』第三巻第七号に掲載された「未来の天才」のもととなった「流布本自筆原稿」をすでに所持していた著者はこれ入手。この二つの自筆原稿から豊島の何が読み取れるのか？本書ではその二種の影印を公開して、それぞれを翻刻した上で解説を加えることにより、著者独自の細かい観察の結果をここに提示する。



定価：本体9,500円＋税 判型：A5判上製カバー装 418頁
刊行日：2022年1月25日 ISBN：978-4-8386-0765-5



今野真二 著 **テキストの変容—動態としてのテキスト**

明治から昭和にかけて成立したテキストを共時的に観察する

言語化されていない「情報」が言語化というプロセスを経て、言語となってかたちをあらわす。言語単位でいえば、語をかたちづくり、語によって文をかたちづくり、文がまとまって文章、テキストとなる。

本書では、そのテキストが「書き手」やその他の事柄によってかたちを変えていくということについて、夏目漱石、岸田國士、島崎藤村、齋藤茂吉、森鷗外、江戸川乱歩にかかわるテキストを採りあげて、言語面から分析、考察を試みる。



定価：本体11,500円＋税 判型：A5判上製カバー装 516頁
刊行日：2021年5月7日 ISBN：978-4-8386-0748-8



今野真二・小野春菜 著 **言海の研究**

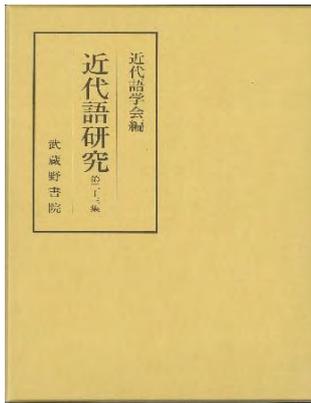
『言海』研究の決定版！

先行研究史、原稿や校正刷からみた成り立ち、辞書体例からみた構造、明治期の日本語における資料性、日本語学の分析素材としての考察。

——『言海』の全貌をできる限り明らかにする。



定価：本体10,000円＋税 判型：A5判上製カバー装 448頁
刊行日：2018年10月10日 ISBN：978-4-8386-0713-6



最新刊

近代語学会 編

近代語研究 第二十三集

山田 潔、坂詰 力治、田和真紀子、松井 利彦
 肥爪 周二、今野 真二、小柳 智一、平井 吾門
 長崎 靖子、田島 優、小松 寿雄、浅川 哲也
 木村 一、米田 達郎、佐藤 貴裕、丸田 博之
 伊藤 博美、園田 博文、新野 直哉、北澤 尚
 真田 治子、常盤 智子、近藤明日子、田中 牧郎
 櫻井 豪人、山田 里奈、村上 謙

の総勢27人の研究者による論文集

定価：本体15,300円＋税 判型：A5判上製函入 592頁
 刊行日：2022年9月5日 ISBN：978-4-8386-0769-3



近代語学会 編 **近代語研究 第二十二集**

坂詰 力治、山田 潔、小林 千草、田和真紀子
 田島 優、肥爪 周二、小柳 智一、小松 寿雄
 坂梨 隆三、長崎 靖子、浅川 哲也、荒尾 禎秀
 内田 宗一、今野 真二、松井 利彦、北崎 勇帆
 佐藤 貴裕、平井 吾門、新野 直哉、伊藤 博美
 園田 博文、近藤明日子、木村 一、櫻井 豪人

の総勢24人の研究者による論文集

定価：本体14,000円＋税 判型：A5判上製函入 540頁
 刊行日：2021年3月30日 ISBN：978-4-8386-0743-3



柳田征司 著 **日本語の歴史 補巻 禁止表現と係り結び**
 定価：本体2,000円＋税 判型：四六判並製カバー装 208頁
 刊行日：2017年5月13日 ISBN：978-4-8386-0474-6

各巻共に 定価：本体2,000円＋税 判型：四六判並製カバー装

- 日本語の歴史 1 方言の東西対立 ISBN：978-4-8386-0422-7
- 日本語の歴史 2 意思・無意志 ISBN：978-4-8386-0429-6
- 日本語の歴史 3 中世口語資料を読む ISBN：978-4-8386-0434-0
- 日本語の歴史 4 抄物、広大な沃野 ISBN：978-4-8386-0445-6
- 日本語の歴史 5 上 音便の千年紀 ISBN：978-4-8386-0452-4
- 日本語の歴史 5 下 音便の千年紀 ISBN：978-4-8386-0457-9
- 日本語の歴史 6 主格助詞「ガ」の千年紀 ISBN：978-4-8386-0464-7





新刊

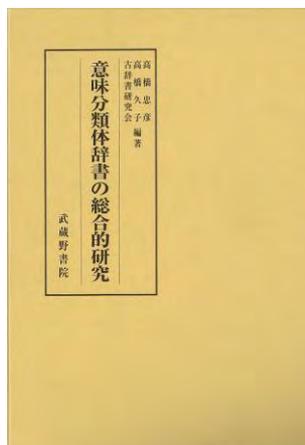
上野和昭 著 **名目鈔声点本の研究**

日本語アクセント史資料としての 名目鈔伝本と、
そこに差された声点についての研究

本書は、声点の差された名目鈔伝本について検討し、そこに差された声点がどのような音調をあらわしているかということの研究したものである。もとよりその目的は日本語アクセント史研究に資するところであり、さらには中世以降、四声観が変容するなかにも名目鈔の声点を位置づけることを目指すものである。



定価：本体12,000円＋税 判型：A5判上製カバー装 432頁
刊行日：2021年10月8日 ISBN：978-4-8386-0760-0



最新刊

高橋忠彦・高橋久子
子
古辞書研究会 編 **意味分類体辞書の総合的研究**
著

本書の作成刊行の目的は、第一に、中世の多くの古辞書の形成、発展、変化に於いて、意味分類体辞書すなわち和名集類が、いかに多大な影響を与えたかを明らかにすることである。第二に、その和名集類に属する、家蔵の文献二種（ここでは「慶長本頓要集」と「高橋本和名集」と名付ける）を、新出資料として紹介することである。

第一の点を扱ったのが、第一部「意味分類体辞書の研究」にまとめた諸論文である。

第二の新出資料については、第二部「慶長本頓要集の研究」の諸論文、第三部「高橋本和名集の研究」及び、それぞれの「影印」や「翻字本文」「注釈」「語彙索引」「漢字索引」が扱っている。

2016年刊行の『いろは分類体辞書の総合的研究』に続き、豊富な資料と30本に及ぶ論文から成る、ボリューム満点の1冊。



定価：本体27,500円＋税 判型：A5判上製函入 上674頁 下828頁
刊行日：2021年12月10日 ISBN：978-4-8386-0762-4



高橋忠彦・高橋久子
古辞書研究会 編著 **いろは分類体辞書の総合的研究**

国立国会図書館蔵『色葉字尽』
東京大学文学部国語研究室蔵『伊呂波集』
および、新出資料の高橋家蔵『色葉字』の三本を高解像度撮影。

初めて影印に付し、翻字・総合索引と研究論文13本を添えて、
江湖に総合的研究成果を広く示すものである。



定価：本体23,000円＋税 判型：A5判上製函入 1256頁
刊行日：2016年10月16日 ISBN：978-4-8386-0299-5



園田博文 著 台湾の日本語教科書と中国語会話書の研究 —昭和20年まで—

最新の資料に基づき、
第1部 台湾における日本語教科書と日本語資料、
第2部 日清韓会話書・台湾語会話書の成立と中国語方言会話書への展開、
第3部 中国語会話書（北京官話会話書）の成立と展開
という三部構成で、昭和20年までの台湾の日本語教科書と中国語会話書について考察する



定価：本体10,000円＋税 判型：A5判上製函入 402頁
刊行日：2021年2月12日 ISBN：978-4-8386-0742-6



園田博文 著 日清戦争以前の日本語・中国語会話集

本書は、日清戦争以前の日本語・中国語会話集についての研究書です。日本語・中国語会話集とは、日本語とそのもとになった中国語とを対照させた会話集のことです。本文では、中国語会話書と呼びます。訳述された日本語を見ると、興味深い語や語法に気づきます。日常使われる口語で訳したとの訳述方針が示されていたり、中国語母語話者が日本語学習のために使ったという述懐がなされたりもしてします。

まずは、第1部で資料について詳細に分析します。その上で、第2部では、人称代名詞について見ていきます。第3部では、戦前まで規範的ではないとされた「新シイデス」「丸イデス」のような用例が見られる点に触れます。時代を先取りしたともいえる例です。第4部では九州方言的要素の検討を行います。



定価：本体1,200円＋税 判型：A5判並製カバー装 148頁
刊行日：2020年10月5日 ISBN：978-4-8386-0735-8



斎藤達哉 著 国語仮名表記史の研究

膨大な古典仮名資料の分析から日本語学の文字・表記史に挑む

本書『国語仮名表記史の研究』は、仮名主体で表記された古典日本語の文章である「仮名資料」を調査対象として、日本語学の文字・表記史の分野に立脚した、「仮名資料の文字調査」、「語と用字との関係」、「字体認識と書写態度」の観点から四部構成で論じたものである。



定価：本体12,000円＋税 判型：A5判上製カバー装 420頁
刊行日：2021年2月16日 ISBN：978-4-8386-0741-9



第40回 令和3年度「新村出賞」受賞

武蔵野書院創業百周年記念出版

多和田 眞一郎 著 沖縄語動詞形態変化の歴史的研究

静岡大学人文学部に提出する卒業論文のテーマに自身の第一言語の「動詞の活用」を選んで以来約半世紀、私の関心の中心は沖縄語の形態、就中、動詞形態変化の変遷（史的変化）にある。

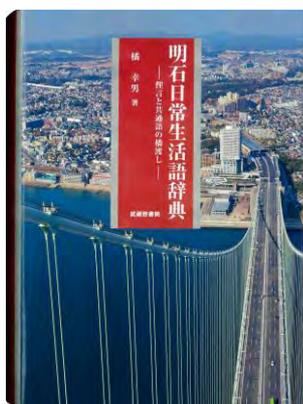
それを跡付けるべく、地道に資料収集・分析を行ってきた。やっとある程度のまとめができ、相応の知見も得ることができたので、目に見える形にしてみることにする。

本書で行ったことは、例えて言えば、原初的なドローンを飛ばして川の流れるさまを写真に収めたようなものであろうか。

川がどこで曲がるか、どこから直線的になるか、幅がどのように変わるか等は写せるが、流れる速さはどうか、深さはどうか、川底の様子はどうか、そこに生息する動・植物にはどのようなものがあるか等はカバーできていない。

将来的には、動画を撮る、水中カメラで撮る等に例えることのできる「手法」を生かして更なる分析ができるようになることを望んでいる。

定価：本体25,000円＋税 判型：B5判上製カバー装 1380頁
刊行日：2019年8月28日 ISBN：978-4-8386-0721-1



橋 幸男 著 明石日常生活語辞典—俚言と共通語の橋渡し—

本書『明石日常生活語辞典』で記録するのは、祖父母の世代、父母の世代、自分たちの世代という三世代が使っていた言葉、或いは、使っている言葉である。それを子や孫の世代に伝えたいという強い思いから、本書を編んだ。

本書は、明石の日常生活で使われている言葉、および最近まで使われていた言葉についての記録であるが、兵庫県内はもちろん、関西一円の方言とも共通点を持つ内容となっている。

定価：本体20,000円＋税 判型：B5判上製カバー装 834頁
刊行日：2019年9月1日 ISBN：978-4-8386-0722-8



B. J. ベッテルハイム 著 伊波和正・高橋俊三・兼本 敏 編訳 日本語訳 英琉辞書

本辞書は、ベッテルハイムの自筆稿本 大英図書館蔵 English-Loochooan Dictionary (英琉辞書) とその付録の Chinese Derivatives (漢語) を翻訳したものである。資料としての活用を第一に考慮し、辞書本体 (A~Z・漢語) を冒頭に編み、索引と解題を後半に綴じた。

定価：本体18,000円＋税 判型：B5判上製カバー装 624頁
刊行日：2017年05月14日 ISBN：978-4-8386-0702-0



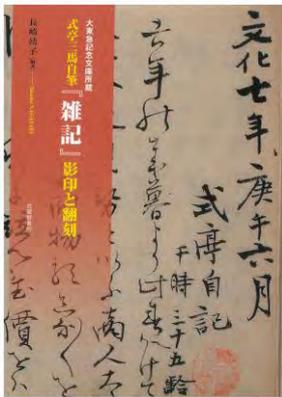
土屋信一 編著 式亭三馬「稽古三弦」影印・翻刻・研究

江戸語研究に役立つ新資料

文政五年（一八二二）没した式亭三馬の遺稿として同九年（一八二六）刊行された「稽古三弦（けいこさみせん）」。
その全文影印（原寸）と翻刻に資料解説を含めた研究を付す。
カラー口絵付。



定価：本体6,000円＋税 判型：A5判並製カバー装 200頁
刊行日：2018年10月10日 ISBN：978-4-8386-0479-1



長崎靖子 編著 大東急記念文庫所蔵 式亭三馬自筆『雑記』影印と翻刻

『式亭雑記』書誌研究にも新たな光を与えた一書。

大東急記念文庫所蔵三馬自筆『雑記』（以下自筆本）を高解像度で撮影した影印を全編掲載。翻刻を影印と併載するかたちで提示したので、三馬の自筆を味わいながら読み進むことができる。三馬自筆の仮名字体の資料として字母翻刻も掲載。さらに、慶應義塾図書館所蔵達摩屋五一識語の『式亭雑記』（以降慶大本）の翻刻も合わせて掲載。自筆本の朱の書き込みは、慶大本を書写した人物と同筆である。両書の関係は、またその他の『式亭雑記』諸写本との関係は如何。



定価：本体11,000円＋税 判型：A5判上製カバー装 400頁
刊行日：2016年10月25日 ISBN：978-4-8386-0298-8



米田達郎 著 驚流狂言詞章保教本を起点とした
狂言詞章の日本語学的研究

狂言詞章を日本語史の中でどう位置づけるか

保教本は現在のところ、驚流においてまとまった分量のある最古の狂言詞章である。本書では保教本を中心に、それがどのような言語的な特徴をもった狂言詞章であるのか、また18世紀以降の狂言詞章の言語がどのような様相を呈しているのかということを中心に多角的な考察を加える。これらは単に狂言詞章研究のみならず、18世紀以降の狂言詞章の言語を日本語史の中でどのように位置づけるかということにつながり、日本語史研究の幅を広げる意味でも重要なことと思われる。



定価：本体8,500円＋税 判型：A5判上製カバー装 308頁
刊行日：2020年9月24日 ISBN：978-4-8386-0733-4



湯浅彩央 著 近代日本語の当為表現

当為表現（前項部～ネバ、～ナケレバ、後項部ナラナイ、イケナイ）は一つの表現形式でありながら、否定助辞の条件表現と禁止表現という二つの表現が合成された特殊な表現形式である。ところが従来の研究では、当為表現は否定表現の一形式として、あるいは当為表現のみ扱われており、形式の変化はある程度明らかになったものの、他の表現との比較が課題として残されていた。両表現の比較により、当為表現の特質がさらに明らかになると考える。そのため、本書は否定助辞の条件表現、禁止表現との比較・対照を行い、先行研究では解明されなかった点に迫ろうとするものである。



定価：本体8,800円＋税 判型：A5判上製カバー装 230頁
刊行日：2019年3月5日 ISBN：978-4-8386-0716-7



佐藤貴裕 著 近世節用集史の研究

本書は近世節用集の展開を跡づけ、その辞書的意義を検討するための基礎的研究である。節用集はその誕生期である戦国・安土桃山時代にも相当数の写本が行われていた。近世においてはことに多様な異本が生み出され、広範な利用者を獲得していった。その節用集、ことに多彩な異本が生み出された近世節用集の展開を描いてみたい。その営みは国語学的研究の側から見れば、資料研究の一つとなるであろう。辞書学的研究からも近世における一大勢力の史的記述として一定の位置を与えられるものと思われる。



定価：本体12,000円＋税 判型：A5判上製函入 440頁
刊行日：2019年2月25日 ISBN：978-4-8386-0717-4

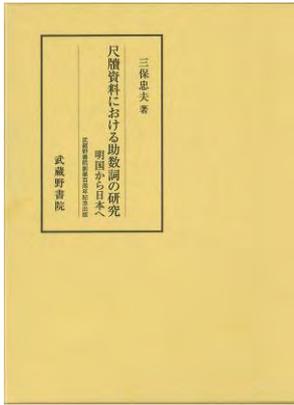


田中章夫 著 東京ことば—その過去・現在・未来

人口の東京一極集中の進展により、南関東一円に「首都圏言葉」とも云うべき、共通の言葉が生まれつつある。
これは、今までの東京語系の、いわゆる「標準語」とはひと味違った、これからの「標準日本語」につながっていくものではないかとも考えられる。
そうした意味で、江戸言葉から東京言葉へ、そして、首都圏に広がる新しい言葉へ、といった変容の足取りをたどる。



定価：本体1,800円＋税 判型：四六判並製カバー装 200頁
刊行日：2017年5月10日 ISBN：978-4-8386-0472-2



武蔵野書院創業百周年記念出版

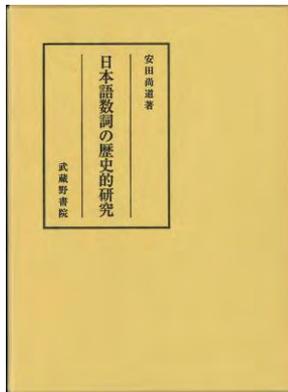
三保忠夫 著 **尺牘資料における助数詞の研究** 明国から日本へ

本書は、「尺牘資料」、並びに、「日用類書」、また、日本の『尺牘式』・『尺牘式補遺』などをもって「助数詞」につき、その語彙面から考察するものである。

「尺牘資料」には、本邦作成の『尺牘診解』（延宝八年〈一六八〇〉刊）、その他を含む。



定価：本体13,500円＋税 判型：A5判上製函入 392頁
刊行日：2019年3月25日 ISBN：978-4-8386-0718-1



安田尚道 著 **日本語数詞の歴史的研究**

先行文献の丹念な渉獵から、数少ない用例をコツコツと蒐集し、日本語がたどってきた数詞の歴史にさまざまな角度から検討を加えた著者畢生の仕事を一冊に凝縮。また、巻末の資料「日本語数詞研究文献目録／参考文献一覧／用例一覧」は、今後の数詞研究に無くてはならない研究基礎資料である。



定価：本体13,500円＋税 判型：A5判上製函入 576頁
刊行日：2015年5月20日 ISBN：978-4-8386-0285-8



日本英学史学会 平成27年度「豊田實賞」受賞

常盤智子 著 **英学会話書の研究**

本書は、英学資料の下位区分の一つである英学会話書の研究を行い、当時の日本語の一端を明らかにすることを目的とする。

第1部では、明治20年までにおける英学会話書を概観し、第2部では外国人の著作である英学会話書を中心とした個別の研究を示す。



定価：本体11,500円＋税 判型：A5判上製函入 330頁
刊行日：2015年6月20日 ISBN：978-4-8386-0286-5



肖 江楽 著 『英和对訳袖珍辞書』の研究

『英和对訳袖珍辞書』（A Pocket Dictionary of the English and Japanese Language）は、1862年に、堀達之助（1823～1894）と、協力者である西周助・千村五郎・竹原勇四郎・箕作貞一郎（麟祥）らによって、幕府洋書調所から刊行された近代日本初の本格的な英和辞書である。明治新政府が建立される前の黎明期に再び改訂増補され、近代日本新国家形成期に第3版と第4版が活字で印刷・出版された。それ以降も改版を重ね、当時の英学者に重宝され、明治20年までほかの辞書に影響を与えていった。今日に至っても、この辞書は多くの研究者に注目されている。本書ではこれらの各版に対して、それぞれ精査を行い、辞書の見出し語の増減を網羅的にデータ化し、収集し得たこのオリジナルデータに基づいて、特に2007年に奇跡的に発見された原稿資料の解読を付け加えながら、辞書の成立や改訂、増補などを実証的に考察した。



定価：本体10,000円＋税 判型：A5判上製函入 290頁
刊行日：2021年1月20日 ISBN：978-4-8386-0740-2



山口 豊 編 宮澤賢治著 『春と修羅』 総索引

本索引は、宮澤賢治詩集『春と修羅』の総索引である。

宮澤賢治はその短い生涯において生前2冊の本を出版した。そのうちの1冊が『春と修羅』という心象スケッチである。本稿はその『春と修羅』の一語一語を取り出し、どのような語が、どの詩において、どのぐらい用いられているのかが一目でわかるようにするための索引である。底本には大正13年4月に関根書店から発行されたものを財団法人日本近代文学館が『精選 名著復刻全集』として発行したものを使用した。

【目次】

凡例

宮澤賢治著『春と修羅』総索引 あ～ん

アルファベット / 対照表



定価：本体6,800円＋税 判型：B5判上製函入 172頁
刊行日：2020年8月20日 ISBN：978-4-8386-0732-7



山口 豊 編 海外新聞総索引

本索引は、新聞の父と呼ばれるジョセフ彦が元治2年に横浜で岸田吟香、本間清雄らとともに発行した

『海外新聞』（全26号）の総索引である。

当時どのような語が新聞に使われ、民衆に受け入れられていたのかを知ることのできる基礎研究資料である。また当時の表記を見出し語としているので、外来語が当時の人々にどのように聞こえていたのかを知る資料ともなる。

底本として早稲田大学図書館資料叢刊2『ジョセフ彦 海外新聞』（早稲田大学出版部刊）を使用した。また、底本には本文の影印が9頁から253頁まであり、257頁からは翻刻が掲載されているので、影印との対照表を巻末に付した。



定価：本体7,200円＋税 判型：B5判上製函入 200頁
刊行日：2017年8月15日 ISBN：978-4-8386-0703-7



最新刊

毛利 香奈子 著

いはでしのぶ物語の研究 —王朝物語文学の終焉—

『いはでしのぶ』という物語のなんたるかを問う

後醍醐院時代に作られたとされるこの物語をはじめ、中世王朝物語は、『源氏物語』などの「模倣」として軽く扱われてしまうことが多い。この物語を精査し、「研究史」を問い、第一部では「見ること、似ること」のその双方の関係を捉えなおし、第二部では「手紙」という重要なアイテムから、物語の前半と後半での担う役割に注目し、第三部では「琴」と「笛」といった「楽器」や音楽からその背後にある皇統に触れ、第四部では物語の中心人物である「一品宮」について論じる。真正面から『いはでしのぶ物語』に挑んだ一書。

定価：本体10,000円＋税 判型：A5判上製カバー装 320頁
刊行日：2022年1月31日 ISBN：978-4-8386-0764-8



最新刊

伊藤 禎子 編著

うつほ物語—国譲巻の世界

『うつほ物語』「国譲」巻「らしさ」とは何か？

前半「本文鑑賞編」で、『うつほ物語』「国譲」巻を読むために読んでおきたい場面を紹介。場面の選定は「国譲」巻への繋がりを意識して、それぞれの場面には簡単なリード文を附し、読みやすくなるような現代語訳をつけた。また、各文の最後には『うつほ物語』読解のポイントを「鑑賞・説明」としてまとめたので、それぞれの場面を読む際の参考となろう。後半「論文編」では編著者をはじめ、ともに学んだ若手研究者の論文計七編を収録、日頃の研鑽の成果を公刊する。

定価：本体8,000円＋税 判型：A5判並製カバー装 298頁
刊行日：2021年11月24日 ISBN：978-4-8386-0763-1



最新刊

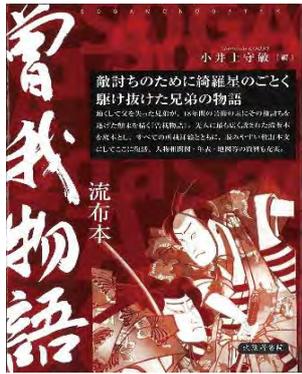
吉海 直人 著

源氏物語桐壺巻論

源氏物語桐壺巻深読みのススメ

本書は、第一部 人物論Ⅰ（主要人物）・第二部 人物論Ⅱ（脇役）・第三部 表現論（特殊表現）の三部立てで構成される。源氏物語桐壺巻を立体的かつ深く読み進めることを企図した、著者三十年に亘る研究の成果である。

定価：本体3,000円＋税 判型：四六判並製カバー装 324頁
刊行日：2021年11月1日 ISBN：978-4-8386-0498-2



最新刊

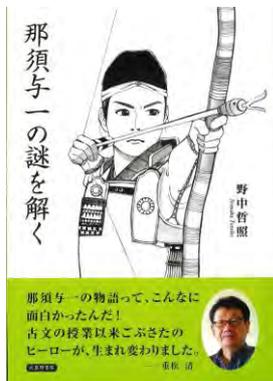
小井土守敏編 曽我物語 流布本

敵討ちのために綺羅星のごとく駆け抜けた兄弟の物語

幼くして父を失った兄弟が、18年間の苦節の末にその敵討ちを遂げた顛末を描く『曽我物語』。先人に最も広く読まれた流布本を底本とし、すべての所載挿絵とともに、読みやすい校訂本文にしてここに復活。人物相関図・年表・地図等の資料も充実。



定価：本体2,000円＋税 判型：四六判並製カバー装 206頁
刊行日：2022年5月20日 ISBN：978-4-8386-0500-2



最新刊

野中哲照 著 那須与一の謎を解く

平家物語でも有名な「扇の的」の名場面。その場面の主役那須与一の名前は知っていても、那須与一がどんな人物か、実は良く知られていない。そんな那須与一の謎を探る。

内容的には学術書ですが、これを一般の方々や学生さんにも読んでいただけるよう、90枚近くの図版（写真、イラスト、地図、図解など）を掲載しました。



定価：本体2,000円＋税 判型：A5判並製カバー装 322頁
刊行日：2022年5月27日 ISBN：978-4-8386-0499-9



最新刊

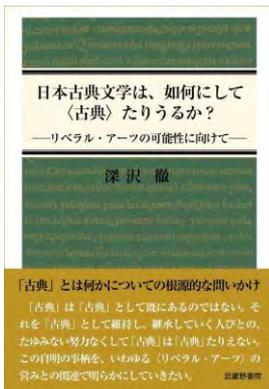
飯泉健司 著 古事記全講義—意図と文学

自由気ままに『古事記』を読んでみませんか？

本書は、約20年間の永きに亘って開催された古事記講読の記録を基に、それを85の章段に分け、さらに冗漫になることを避けるため、基本的に一章段を見開き4頁にまとめたものである。また、適所に詳細な系図や表を効果的に配置することによって、読解の便をはかった。



定価：本体2,500円＋税 判型：四六伴並製カバー装 406頁
刊行日：2022年6月28日 ISBN：978-4-8386-1001-3



深沢 徹 著
日本古典文学は、如何にして〈古典〉たりうるか？
 —リベラル・アーツの可能性に向けて—

「古典」とは何かについての根源的な問いかけ

「古典」は「古典」として既にあるのではない。それを「古典」として維持し、継承していく人びとの、たゆみない努力なくして「古典」は「古典」たりえない。この自明の事柄、いわゆる〈リベラル・アーツ〉の営みとの関連で明らかにしていきたい。



定価：本体3,000円＋税 判型：四六判並製カバー装 276頁
 刊行日：2021年4月23日 ISBN：978-4-8386-0493-7



最新刊

深沢 徹 著

「この国のかたち」を求めて
 —リベラル・主権・言語—

「この国のかたち」は如何にあるべきか？

ロシアによるウクライナ侵攻という事態が出来て、これはどうしても、いま「本」にしておかねばならないとのやむにやまれぬ思いにかられ、既発表のいくつかの文章を再構成するかたちで、急遽、本書を出版することとした。—本書「あとがき」に代えて より



定価：本体2,000円＋税 判型：四六判並製カバー装 206頁
 刊行日：2022年5月21日 ISBN：978-4-8386-0500-2



高橋秀城 著 **法の水茎**—和歌とおはなしでひもとく仏教—

高尾なる緑もふかき法の山飯繩の御威永遠に変わらじ

いにしへの和歌や説話、古典文学には仏様の教えがちりばめられている。また、その教えをもとに書かれた作品も少なくない。

本書はこれらの古典作品を手がかりとして、仏教の奥深い教えに近づくことを目的として書かれた、ひとつの道しるべ。

高尾山薬王院発行の『高尾山報』に、普濟寺住職である著者が、八年に亘って連載している『法の水茎』1～100話をこの一冊に収録。悩み多き現代人に贈る、言わば百話の心の処方箋。住職ならではの優しい語り口が、読者を仏の御心へと誘う。



定価：本体3,500円＋税 判型：A5判並製カバー装 452頁
 刊行日：2021年3月11日 ISBN：978-4-8386-0492-0

